

2011年3月期 第2四半期決算説明会

質疑応答

Q.不採算案件の引当が発生したとのことですが、具体的な不採算案件の数や規模、稼動時期等を教えてください。また、今後のリスクについてどのように見るべきかを確認させてください。

A.不採算として引当てた案件数は、基本的には1つとお考えください。個別企業との取引でもあり、その他、詳細についてのご説明は控えさせていただきたいと思います。

なお、今後の話については、経営的な影響は限定的なものであると考えております。

Q. IT業界全体で、不採算案件ではなくても利益を上げづらいという話を数社から聞いております。不採算案件以外のものについて、利益率が悪化しているというような傾向は出ておりますでしょうか。

A.不採算案件を除いて計算しますと、ソフトウェア開発ビジネスの売上高総利益率（今上半期）は前年同期とほぼ同様、若干上回っております。この実績を見る限り、弊社におけるソフトウェア開発案件の採算低下という状況はございません。

Q. CSKとの業務提携について、進捗の状況を教えてください。

A.現在、粛々と業務提携の検討を進め、かつ具体的な協業案件について検討・推進している状況とご理解ください。第1四半期の決算説明会でも申し上げましたとおり、11の具体的プロジェクトについて、引き続き検討を進めている状況でございます。

資本提携につきましては、本日現在お話しできることはないということをご理解ください。

Q.ビジネス動向につき、夏場はスローだったが足元では回復してきたとのことですが、製造業のお客様を中心に、9月以降の円高による御社の業績への影響は出ておりませんかでしょうか。

A.製造業のお客様については、本日現在、円高の進行等事業環境が厳しくなる中、プロジェクト進行を止められた、あるいは延期された等の案件はございません。

また、製造業以外のお客様については、例えばSAP案件については、足元の状況では（第2四半期後半以降）ディールフローが増えてきております。以上、現時点では、円高の影響が目立った動きは特にないものをご理解ください。

Q.保守的に捉えて通期予想を変更しないということですが、この考え方について教えてください。期ずれもあり上期の売上が未達であったとのことですが、一方、受注残を見ると前年より若干下回っております。このような状況で売上の通期予想は前年比6%増収とされており、これを保守的とみなすことについての考え方を教えてください。

A.当社の売上高予想値は第1四半期決算発表時に上方修正しております。この修正予想に対して若干未達ではありましたが、期初予想の売上高は達成いたしました。もともと期初予想において通期6%強の増加を見込んでおり、今回の上半期実績はこのラインには乗っているという意

味で保守的と申し上げております。すなわち、期初想定シナリオに沿って業績が推移していると考えております。

以上